

とやま



県公連会報

第347号

令和5年7月24日
富山県公民館連合会
富山市舟橋北町7-1
富山県教育文化会館内
TEL・FAX(076)444-5777
E-mail tomic07@iaa.itkeeper.ne.jp



R 5.5.24水 「ボッチャ教室」

熱戦に大盛り上がり！参加者から、また挑戦したいとお声をいただきました。



R 5.6.10土 「三代交流歩こう会」

片貝川流域にある蛇石・洞杉を巡るコースを歩きました。



R 5.6.24土 「コスモス種植え体験」

5月にヒマワリの種植えも行い、「交流館のまわりを花の名所」にする活動をしています。



R 5.6.25日 「地区敬老会」

地区の小学生たちが敬老を祝して、市の無形文化財に指定されている「布施谷節（ふせんたんぶし）」を披露しました。

表紙写真

変わり続ける地域の中であって

魚津市西布施公民館

西布施公民館は、魚津市を象徴する山である僧ヶ岳を仰ぎ見、眼下に黒部市との境界を流れる布施川を見下ろす山間に位置する公民館です。現在の地域人口は約一千人ですが、減少化・高齢化は年々顕著になってきています。地域と地域住民の心の真ん中にあった小学校も数年前には統合により姿を消し、次第にコミュニティの活力までもが低下傾向にあるように感じられます。

この急速に変化しつつあるコミュニティに適應する情報発信の在り方、交流の拠点としての公民館の在り方に関し再点検するとともに、従前から実施してきた種々の教育講座や地域イベントについてもその実施趣旨を明確にした上で再評価し改善を図っていきます。

〈本号の主な内容〉

2面 ● 第17回定期評議員会

- ・会長挨拶
- ・本年度活動目標

3面 ● 初任者研修会

- ・講演概要
- ・委嘱公民館の発表

4面 ● わが町の公民館活動

- ・射水市放生津コミュニティセンター
- ・富山市立奥田北公民館

5面 ● わが町の公民館活動

- ・滑川市東加積地区公民館
- ・小矢部市立藪波公民館

6面 ● 表彰館紹介

- ・南砺市南山見交流センター

第17回 定期評議員会開催



中西 彰 会長

第17回定期評議員会は、5月19日(金)に県教育文化会館において開催された。議事に先立って中西会長から挨拶があり、「年度当初の多忙が一段落した今、公民館活動の原点について考えるため、県公連発行の『公民館活動の新たなステージ』や全公連発行の『よくわかる公民館のしごと』『月刊公民館』等を活用してほしい」、「アフターコロナにあってもコロナ禍の中で身に付けてきたデジタル技術の活用に取り組んでほしい」の2点について話があった。

続いて来賓として出席していただいた、県教育委員会生涯学習・文化財室長辻ゆかり氏から、「公民館では、子供たちの健やかな成長を願い、ふるさと自然体験活動に取り組んでいただいております。また、今年度より『公民館 de つながるモデル事業』として、従来から行われている集合対面型の公民館活動にデジタルを組み合わせ、人々が多様につながる新たな公民館活動の創出を支援する事業を実施いたします。9市町村、11館のモデル公民館に参加いただくこととしておりますが、地域の絆づくりや活性化とともに、郷土の特色を発信できるものと期待しております。」とのご挨拶があった。



辻ゆかり 室長

続いて来賓として出席していただいた、県教育委員会生涯学習・文化財室長辻ゆかり氏から、「公民館では、子供たちの健やかな成長を願い、ふるさと自然体験活動に取り組んでいただいております。また、今年度より『公民館 de つながるモデル事業』として、従来から行われている集合対面型の公民館活動にデジタルを組み合わせ、人々が多様につながる新たな公民館活動の創出を支援する事業を実施いたします。9市町村、11館のモデル公民館に参加いただくこととしておりますが、地域の絆づくりや活性化とともに、郷土の特色を発信できるものと期待しております。」とのご挨拶があった。

令和5年度県公民館連合会役員

顧問	鹿熊 久三(富山市)	
会長	中西 彰(富山市)	
副会長	中村 茂信(富山市) 高井 清高(高岡市)	
	大野 聡一(魚津市) 平澤 栄次(砺波市)	
	岩坪智恵子(高岡市)	
理事	山口 吉弘(富山市) 武埴 二郎(富山市)	
	伊藤 和雄(富山市) 蒲田 幸雄(高岡市)	
	長堀 征雄(射水市) 布尾 誠(氷見市)	
	永田 晉治(滑川市) 谷口 政芳(黒部市)	
	藤田 一彦(小矢部市) 松嶋 裕治(南砺市)	
	山崎 正晴(上市町) 吉崎 嗣憲(入善町)	
	黒田 千秋(富山市) 浜田 信治(魚津市)	
	長田 朱美(小矢部市)	
監事	多田 省吾(射水市) 幅 昭雄(立山町)	
	土田 恵子(砺波市)	
事務局	本田 正則 木本 聡子	

令和5年度活動方針

公民館は、地域の人々に最も身近な学習や交流の場として、人々の教養と生活文化の向上や福祉の充実、健康の増進、地域の安全・安心の向上等、地域社会の中で大きな役割を果たしている。しかし、近年の少子高齢化の進行や家族形態の変容などによる地域社会の絆の希薄化、制度面での変革、自然災害の多発、新型コロナウイルス感染予防をはじめ、多くの課題が顕在化し、公民館の管理・運営の柔軟な対応が求められている。

このような現状を踏まえ、我々は公民館が地域社会のかけがえのない拠り所となるよう不断に自らの在り方を見直し、今日的な役割や課題、新たな要請やニーズに対応すべく、自主的・自立的、効果的な運営に一層の工夫努力を重ねていかなければならない。

本会は、このような状況を踏まえ、地域コミュニティの向上のために、関係諸団体等との連携及び公民館相互の連携を一層密にし、地域の特性を生かした公民館活動が活発に展開されるよう努める。

令和5年度活動目標

- ・公民館の発信力を高めるとともに、地域の多様な関係団体等との連携・協働、地域の様々な人材の発掘、連携・活用等を促進する。
- ・地域の特性を生かした事業やまちづくり、防災・減災、安全・安心の地域づくり、人々の自由で主体的・創造的な学習活動の充実等を通して、地域の絆を築く取組を推進する。
- ・住民が地域に誇りと愛着をもち、青少年が地域に支えられて心身の成長を遂げられるよう、異世代交流や家族ぐるみ参加により、ふるさとの自然や歴史・文化等を、五感を通して体験的に学ぶふるさと教育活動の機会を充実する。
- ・地域の活力と住民の絆の基盤が、家庭、子供たちの成長にあることに鑑み、地域で子供たちを見守り育てる環境づくりに努める。
- ・地域のニーズを掘り起こし、多様化する要請に対応できるよう公民館職員の職務に応じ専門性を高める研修を充実して資質向上に努める。
- ・公民館施設の耐震化、バリアフリー化の推進とともに、職員の常勤配置等を関係機関に働きかける。
- ・ウイズコロナでの活動の工夫やポストコロナでの学びの在り方を学びあい、これからの公民館活動に活かしていく。
- ・大会・研修会や公民館での学びを地域へ発信したり、さらに活動の輪を広げたりするなど、学びを生かす活動を推進する。

公民館運営の在り方、地域課題・住民ニーズの把握と事業企画を考える！

令和5年度 富山県公民館初任者研修会開催



激励のことばを述べる河原班長

6月15日(木)、公民館初任者研修会は、4年ぶりに参加人数を絞らずに、84名が参加して県教育文化会館で開催された。

開会に当たり、来賓として出席していただいた、県教育委員会生涯学習・文化財室家庭成人教育班長河原千里氏から、「公民館が全国に設置されるようになってから、すでに80年近く経過し、公民館を取り巻く環境も大きく変化しました。

こうしたなか、活力ある健全な地域社会を将来にわたって持続的に維持していくために、住民に一番近い存在である公民館が果たすべき役割や責任は、ますます大きくなっていくものと思われます。そして、公民館がうまく機能するためには、職員の力量によるところが大きいことから、公民館職員としての専門性を高め、地域コミュニティの活性化にご尽力くださいますようお願い申し上げます。」との激励の言葉があった。

引き続き研修に入り、県公民館連合会副会長・高岡市立成美公民館主事 岩坪智恵子氏による「身近な地域コミュニティの拠点としての公民館の役割」の講演と、令和4年度研究委嘱館の発表を通して、研修を深めた。なお、**岩坪氏の講演と委嘱館の発表は、本会ホームページから動画配信**しています。

【岩坪氏の講演より】

○講演要旨

1. 公民館の目的と事業
 - ・社会教育法（20、22条）
 2. 公民館の役割
 - ・集会と活用（つどう）
 - ・学習と創造（まなぶ）
 - ・総合と調整（むすぶ）
 3. 具体的な事業例
 - ・ライトウォーク等（つどう）
 - ・土曜学習等（まなぶ）
 - ・まちづくり出前講座等（むすぶ）
 4. 積極的な発信・時代に合わせた発信の工夫
 - ・ホームページ
 - ・フェイスブック等
 5. 第34回全国公民館セミナー参加報告
 - 〈テーマ〉公民館の未来
 - －未来の公民館をデザインしよう－
- 最後に、身近な地域の拠点として、魅力ある愛される公民館を目指していきましょとエールをいただいた。



講演する岩坪副会長

【研究委嘱館の発表より】

I 「天神ふるさとウォーキング⁺」

魚津市天神公民館 館長 山浦 尚氏

1 主題について

コロナ禍の運動不足解消と健康増進を図りながら、歩く時の正しい姿勢や用具活用を体得し、更に地域の自然や歴史、景勝地の再確認や再発見に繋げる。

2 実践事例

毎月1回（年12回）定期的に開催している。自然豊かな季節に合わせてコース設定をしているが、地元のゴルフクラブのコースを歩くこともあり、地域の自然、歴史、景勝地の素晴らしさを体感してもらっている。冬はウォーキングにボッチャ体験やスノーシュー体験などをプラスして雪の中でも楽しんでもらえるように工夫を凝らしている。

3 成果と課題

正しい姿勢や用具活用を体得することができ、よりウォーキングを身近に感じる事ができた。参加者同士の交流を深めるとともに地域の再確認と再発見に繋げることもできた。今後は、参加人数の増加を図るための広報活動と地元以外の地域への展開に尽力していきたい。



発表する山浦館長

II 「三世代交流お楽しみ会」

—射水市金山コミュニティセンター—

滑川市西加積地区公民館 主事 毛利 恒治氏

1 主題について

学童保育の移転やコロナ禍の影響で地域交流の機会が減少したため、三世代が気軽に集える交流活動の場にしたいと考えた。

2 実践事例

これまで行ってきた餅つき体験の他に、輪投げゲーム・迷路とボウリング・健康相談コーナー・土人形絵付け体験コーナーを設けて、三世代の皆さんと一緒に参加して楽しめるように企画した。子供たちには、スタンプラリーをしながら各コーナーを体験して楽しめるように工夫した。

3 成果と課題

初めて絵付け体験をしてみたが、高齢者の方や多くの子供たちが楽しそうに参加している姿を見ることができて嬉しかった。3年ぶりの開催だったが、今後も多くの方の協力を得ながら、三世代と一緒に参加できる交流の場を継続していきたい。



発表する毛利主事

歴史と伝統の町の

《安全安心》の拠点！

射水市放生津コミュニティセンター

放生津は、平安・鎌倉時代から「越中守護」という政治の拠点が置かれ、越中の中心都市として、また港町として賑わっていた歴史があります。現在も歴史ある神社仏閣が多くあり、海からの眺めや内川の風景などの魅力的な景観は、伝統ある曳山祭りを盛り込んだ映画の撮影地にもなっています。

一方、商店街の衰退や、空き家や廃屋が見られる状況で、現在約1,900世帯、人口約3,900人、高齢化率44%を超えているという問題も抱えています。

当センターは、生涯学習事業はもちろん、地域振興会、社会福祉協議会等の事業、サークル活動等、そして、各種団体の交流の場として大勢の方に活用して頂いており毎日賑わっています。

さらに、2年前から地域活動として、校下連合自治会と連携を強化し、当センターを拠点に、自主防災組織作りのための研修会や講座、ワークショップなどの開催に尽力してきました。

また、年に一度、「黄色いハンカチ作戦」と題して、各世帯に安否確認の合図として黄色いハン

カチを掲揚し、各町内で把握したものを当センターに集約するという災害訓練を実施しています。

この活動を通して、住民一人一人ができる「命を守る行動」を再確認し、みんなで協力すること（共助）で、地域防災力を高めています。

これからも今まで以上に、放生津地区の皆さんの安全安心のため、また、喜んで活用して頂けるよう、開かれたセンターを目指して笑顔の特訓をしていきたいと思ひます。



令和5年3月5日(日) 防災研修会

わが町の公民館活動

富山市立奥田北公民館

地区や世代を超えた

公民館活動を目指して

奥田北校下は奥田校下の北に位置しており、昭和44年前までは奥田校下に包括されていましたが、同年には奥田北小学校が創校され奥田校下から分離いたしました。その後暫くして昭和56年には正式に自治振興会、長寿会等が設立されており、同年奥田北公民館が設置されました。また、公民館は老朽化のため令和2年に改築を経ています。奥田北校下の世帯数については、中島町、粟島町、松若町、千代田町、下新本町、下新北町1区、3区の7町内からなる3,738世帯、人口は8,032人の規模であり、人口1万人を超える奥田校下に比べ、約8割の若干コンパクトな人口となっております。

校下北側には自然豊かな富岩運河が流れ、運河の歴史や発展を物語る「中島閘門」をはじめ、「富岩水上ライン」や街中を走る「富山港線」、また、それらを組み合わせた周遊観光が楽しめる「運河クルーズ」など、素晴らしい環境が整備されております。

公民館では「ふるさと講座」事業として、正月

花アレンジメント教室やみそ作り教室など、普段家庭ではできないような体験ができるため、参加者からは大変好評を得ております。しかしながら、ここ3年間はコロナのため事業が思うように実施できない状況でありました。本年度からはコロナ禍前と同等な取り組みができるように、関係団体らと連携を図るとともに、地区全体の活性化と交流を図り北部地区の市立公民館とも連携しながら、生涯学習を通じて地区や世代を超えて親睦が図れるよう活動を進めていきたいと考えております。



みそ作り教室

「ここに住んでいてよかった」 と言ってもらえる活動に

滑川市東加積地区公民館

東加積地区は滑川市の南東部、海拔45mから250mの丘陵地にあり、そこから見下ろす富山平野、富山湾、能登半島の眺望の凄さは、県下有数いや随一ではないかと自負しています。世帯数は472、人口は1,320人の少子高齢化が進む地区です。

当公民館の三大行事は公民館まつり、合同運動会、地域ふれあい三世代の集いですが、公民館まつりは台風とコロナ禍で4年間中止、合同運動会については少子高齢化に伴い、5年前に住民運動



ミニ門松づくり

会と小学校の運動会を合同で実施したらどうかと意見が出され、2年間の準備期間を経て、いよいよ開催となった途端、コロナ禍で残念ながら未だに実施されていません。ただ、コロナ禍でも毎年実施したのが地域ふれあい三世代の集いです。

「地域ふれあい三世代の集い」開催にあたっては、コロナ感染対策として、受付で検温、消毒、名簿記入をし、マスク着用とリストバンドを付けてもらい入場可能としました。また、PTAや他団体から無料提供されていた豚汁やおにぎりは中止しました。その中で、ミニ門松作り、介護疑似体験・血圧測定等、かるた取り、チャレンジランキング、フリー工作等で盛り上がり、特にミニ門松作りは親子で挑戦し、地域の高齢者の方から手ほどきを受け、悪戦苦闘しながらも和気あいあいと取り組んでいる姿が印象的でした。

今年度はこの三大行事を完全復活させたいと強く願っています。そして、地域住民の絆を取り戻し、「やっぱりここに住んでいてよかった」と言ってもらえる公民館活動にしていきたいと考えています。

わが町の公民館活動

小矢部市立藪波公民館

人も自然も元気な地域に

藪波地域は市の中南部に位置する自然豊かな純農村地帯で、世帯数は605、人口は1,888人の地区です。小矢部市はメルヘン建築の町として有名であり、当館もイギリスのウェストミンスター寺院を模して建てられています。

当館では5年前に「地域活性化事業」として歴史講座と健康マージャン教室を立ち上げました。歴史講座は、地区内にある史跡や石碑、古道跡などを歩いて廻り、地域への理解を深めるとともに、健康づくりにも役立てようとするものです。藪波地区は古くから人々が住み着いており、歴史的に重要な遺跡等がいくつもあります。現在は一面に田が広がっていますが、500年前は何千軒もの家やお城があったといわれる場所では、参加者の皆さんは当時の景観を想像し、あまりの違いに驚きを隠せないようでした。健康マージャン教室は十数名から始まりましたが、2年目にはサークルとして再出発。現在は約40名の大所帯となって、週1回の定例会のほか、年3回の大会も開催するなど大盛況です。

この他、子供たちによる「藪波川の調査」を年

3回行っています。これは「ホタルの里を守る活動」の一環として行っており、子供たちが酸素濃度などの水質を試薬で調べたり、水生生物を採集したりして、川水のきれいさを調べるものです。水質は良好な状態を保っていますが、近年はホタルのえさとなるカワナの数が少なく、ホタルの出現数もずいぶん減ってきています。子供たちも「このままではホタルの里が危ない」と心配しており、今後、地域の皆さんにも働きかけて対策を取っていききたいと考えています。



子供達による「藪波川の調査」

表彰館紹介

南砺市南山見交流センター 令和4年度優良公民館表彰 (文部科学大臣表彰) 受賞

「ふる里再発見交流で地域を活性化しよう！」

南山見地区は、南砺市北部に位置し、八乙女山麓に広がるのどかな田園地帯です。人口は935名、世帯数265戸の小さな地区で、高齢化率は約42%と高いです。南砺市が推進する小規模多機能自治により、2019年4月に南山見地域づくり協議会が発足し、公民館は交流センターと改名しました。

少子高齢化が進展する中、追い打ちをかけるようにここ数年コロナ禍にあって、地域の課題である「交流による地域活性化」を図るにはどうしたらよいか悩みました。思いついたキーワードは、「ふる里再発見」です。ここで、当地区の特色ある活動を紹介します。

【「月曜サロン」による同世代交流の日常化】

交流センターに隣接する八乙女サロン会館では、健康・福祉部会の所属団体が毎週「月曜サロン」を実施しています。高齢者40名程が参加し、健康体操、歌唱、ゲーム、ものづくり、講座、栽培、朝市等多様な活動を楽しんでいます。地元の野山の植物を材料としたものづくりを伝承する方等、主に地区住民が得意分野を発揮しながら指導を行っています。「ふるさととの仲間の再発見」の場となっています。

【「ふる里探訪」体力づくりの継続】

コロナ禍で、三密を避けるためには戸外の活動が適しているため、2021年から3年間にわたり「体力づくりふる里探訪シリーズ」を企画しました。第1弾は地区の名峰を歩く「八乙女トレッキング」、第2弾は地域の名所史跡を巡る「院瀬見ウォーキング」を実施し、今年度は第3弾として、湧き出る霊水が平成の名水百選にもなっている、地区の自然の宝を訪れる「不動滝ウォーキング」を計画しています。子供から高齢者までが参加する「世代間交流」の場であり、「こんなすごい所があったのか」と驚きの連続となる、正しく「ふる里再発見」の活動となっています。

【「ふる里再発見」をまとめた「郷土誌」の編纂・発刊】

協議会が発足した2019年は、平成から令和に元号が変わった年でした。これを契機として、5周年を迎える年に、「郷土誌」を編纂し発刊することを決めました。3年間は「ふる里の歴史文化調査委員会」を約30名で13回開催し、7つの部会で資料を収集し原稿の作成を行いました。4年目からは、7名で編集委員会を構成し、これまで9回開催しています。内容は、「地勢と成り立ち」「自治振興のあゆみ」「産業の変遷と生活環境の変化」「教育と人材育成」「神社・寺院・史跡」「集落いろいろ」等多岐にわたっており、これ一冊で当地区のことが全て理解できる「ふる里再発見」の集大成と言えるでしょう。

今更、少子高齢化を問題視しても仕方ありません。現状と向き合い、知恵を出し合って「交流の場」を如何に設定するかが課題であると思います。今回は「ふる里再発見」をキーワードとした活動を紹介しましたが、これからはさらに「三世代交流」がキーワードになりそうです。



南山見地域づくり協議会設立総会



月曜サロン「野山の植物でロープ作り」



ふる里探訪八乙女トレッキング



ふる里の歴史文化調査委員会

おめでとうございます！ 受賞公民館を紹介します

◇令和5年度「県民ふるさと大賞」

・魚津市加積公民館
・南砺市南山田交流センター